

# 献 呈 の 辞

経営学部長 小 笠 原 英 司

経営学部専任教授高橋俊夫先生は、昨年5月にめでたく古稀を迎えられ、本学規定により本年3月末日をもって満期定年退職されることになりました。まずは、先生の40年余にわたるご精勤に対し、心より感謝と慰労の意を表したいと思います。

先生は1963年に本学部を卒業後ただちに経営学研究科に進学し、本学部および経営学研究科の創設者佐々木吉郎博士のもとで研究者への道を歩まれました。1968年3月に博士課程（現博士後期課程）単位取得と同時に経営学博士の学位を授与され、同年4月に本学部助手（旧後継者養成型助手）に任用されました。そして翌69年4月に本学部専任講師に任用されて以後40年を経て今日に至っております。まさに順風満帆の履歴と言えましょう。

教授の学問を語るとき、佐々木吉郎先生のお名前を欠かすことはできません。佐々木門下にはきら星のごとき俊英が多々おられますが、教授は最後の直系佐々木門下生であり、しかも本学部において最後までドイツ経営学を継承された唯一人の高弟です。佐々木先生最晩年の院生として博士の警咳に接する光栄に浴した経験をもつ小職としては、この度の高橋教授のご退職は、本学部の創生史を知る生き証人の現役引退という意味で、感慨深いものがあります。

先生は『経営経済学の新動向』（中央経済社、1979年）の主著刊行以後、共著、編著を除き長く単著公刊を休まれていましたが、数年前のご病気を克服されてから、立て続けに4冊もの単著書を出版されました。もちろんそれは、日ごろの弛まぬ努力とそれによる豊富な蓄積があったればこそ可能となったものですが、自らの学問を集大成すべき時機来たりという先生の強い意志による計画実行と拝察します。この快挙にあらためて敬意を表したいと思います。

上記のように、先生はいわば生粋の“経営学部人”です。おそらく経営学部を愛するという点では先生を凌ぐ人はいません。本学部はいま種々の変革と挑戦に取り組んでおりますが、先生にはこれまで同様、本学部の成長を見守っていただきながらご助言を賜りたく、また今後も変わらず私ども後進をご指導賜りたく、謹んでお願い申し上げます。

先生の弥栄のご健勝を心より祈念し、本号を先生のご古稀記念号として献呈します。

2010年3月